

2016年夏 ベネッセアートサイト直島にて
新しいパフォーマンスアート作品を発表します。

岡田利規×森山未来パフォーマンスプロジェクト 「in a silent way」



©Kikuko Usuyama



©Takeshi Miyamoto

このたび、ベネッセアートサイト直島は、瀬戸内国際芸術祭2016<夏会期>の参加プログラムとして、公益財団法人 福武財団主催、株式会社ベネッセホールディングス協賛による「岡田利規×森山未来パフォーマンスプロジェクト」を開催いたします。

ベネッセアートサイト直島は、瀬戸内海の風景やそれを取りまく自然や地域固有の文化のなかで、時間をかけてアート活動を行ってきました。活動により、その場に新しい価値を見出し、どこにもない特別な場所を生み出していくことを目指しています。

1992年夏、活動の始まりとなる、美術館とホテルが一体となった施設「ベネッセハウス」が開館。開館当初は、様々な企画展やイベントを開催していました。そして90年代半ばより、アーティストを招いて「直島にしかない作品」を制作し、完成した作品は永久展示するコミッションワーク形式によるサイトスペシフィック・ワークへと転換していきます。2016年夏、私たちの「サイトスペシフィック」アート活動の原点ともいえるベネッセハウスにて、パフォーマンスアートの上演という新しい試みに挑戦します。

本プロジェクトは、長谷川祐子氏のキュレーションのもと、言葉と身体の関係性を用いた独自の演劇手法により国内外で注目される演劇作家・小説家の岡田利規氏と、俳優・ダンサーとして幅広い活動を展開されている森山未来氏を招へいし、ここ直島でともに滞在し、作品を創作し、上演していただきます。アートや建築だけではない、直島およびベネッセハウスにとっての新しいアプローチ、そして滞在制作を通じてアーティストらが地域との関係性を育み・深めていくプロセスから生まれる新しい作品にどうぞご期待ください。

取材・掲載に関する問い合わせ

ベネッセアートサイト直島 広報担当/川浦、ブルヒン

〒761-3110 香川県香川郡直島町850 TEL: 087-892-2550 / FAX: 087-892-4466
E-mail: press@fukutake-artmuseum.jp <http://benesse-artsite.jp/>

Benesse
Art Site
Naoshima

資料 1

<一般向け告知概要>

in a silent way

共作＝岡田利規、森山未来 | キュレーター＝長谷川祐子

主催：公益財団法人 福武財団

協賛：株式会社ベネッセホールディングス

制作協力：株式会社プリコグ

日時：

2016年8月23日(火)～29日(月)

※詳細はWEBサイトをご覧ください。 <http://benesse-artsite.jp/in-a-silent-way.html>

※各回上演時間約70分予定

会場：ベネッセハウスミュージアム（香川県香川郡直島町琴弾地）

※公演チケット発売中。(7/5 12:00 現在残僅少となっております)

取材・掲載に関する問い合わせ

ベネッセアートサイト直島 広報担当/川浦、ブルヒン

〒761-3110 香川県香川郡直島町850 TEL: 087-892-2550 / FAX: 087-892-4466
E-mail: press@fukutake-artmuseum.jp <http://benesse-artsite.jp/>

Benesse
Art Site
Naoshima

資料 2

in a silent way について——キュレーターからのメッセージ

キュレーター 長谷川祐子

作家で演出家の岡田利規と、俳優でダンサーの森山未来のコラボレーションを考えたのは、2014年東京都現代美術館で開催したパフォーマンスとアートをテーマとした「新たな系譜学を求めて」展で二人に出品してもらったことがきっかけです。この展覧会は演劇やダンスといった身体パフォーマンスがどこからきてどこへいくのかをいくつかの系譜——脈絡でたどろうとするものでした。

その中の一つ、日常的な記憶や行為を繊細なセンサーでとらえ、新たなフォームに変換する系譜の中に、岡田さん、森山さんの活動を見ることができます。二人はいずれも新しい演劇やパフォーマンスのあり方を求めて真摯に模索していました。

岡田さんはチェルフィッチュの活動を通して独特の身体言語を創造しています。現代の若者が無意識に使っている日常的な言葉づかいや仕草。ともすればだらしなくなげやりなそれらを岡田さんは誇張や反復、ずらしなどによって変容させ、緊張感とリアリティに満ちたパフォーマンスとして「上演」します。「言葉で踊らせる」という岡田さんの言葉は、身体と言葉のあいだのスリリングな拮抗関係をあらわしています。

一方森山さんは映画、舞台で役者としてセリフ劇を演じる身体と、ダンサーとしてより抽象度の高いパフォーマンスを行う身体の二つをもっています。演じる役の幅の広さに加え、その身体表現能力は、昆虫、動物、ロボットという非人間的な身体を横断できるほど豊かです。これを横断しながら、言葉と身振り、踊りという要素をユニークな形で再統合することを森山さんは模索しており、日常的な動きを繊細に大胆に変換する岡田さんの創作に関心をもっていました。

瀬戸内の島で展開する、ベネッセアートサイト直島のアートプロジェクトは、中央からでなく、辺境——島から世界にむけてこれを変革する強いメッセージを発するというヴィジョンに基づいています。直島のベネッセハウスミュージアムにあるシリンダー状の特殊な空間で、一人の革命家がしづかに声を発し始めるというアイデアは、ベネッセアートサイト直島代表の福武総一郎さんがもつ「革命」のヴィジョンの共有から始まりました。

船に乗り、非日常的な旅を経て、島にたどり着いた人びとは、船とも実験室ともみえるシリンダー状の空間の中で、一人の男が語りかける言葉がその空間に響き、共鳴して一人一人の身体の中に浸透してくる時間を体験します。

そしてパフォーマンスの終わりに、「革命」はどのように起こるのでしょうか？ あたかも催眠術のように、詩の朗読のように、独裁者の演説のように、言葉は官能的でドグマティックで、かろやかに、抵抗できないほどの優しさで観客の中に浸透し、流入してきます。この二人の時間の錬金術師の共謀をみたい、今回のキュレーションはそれを目的としています。

アーティストプロフィール

【岡田利規】

1973年横浜生まれ。熊本在住。演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。97年に、演劇ユニット「チェルフィッチュ」を旗揚げ。現代の若者を象徴するようなリアルな日本語による台詞、だらだらとしてノイズな身体性を持つ作風が注目を集める。2005年、『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。07年には『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で小説家デビューし、第2回大江健三郎賞受賞。岡田が全作品の作・演出を手がけるチェルフィッチュの作品は海外でも高く評価され、国際共同製作により『フリータイム』(08年)、『ホットベッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』(09年)、『地面と床』(13年)、『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』(14年)、『部屋に流れる時間の旅』(16年)などを発表したほか、世界70都市以上で公演を行う。15年には韓国・光州のアジア芸術劇場オープニングプログラムとして初の日韓共同制作作品『God Bless Baseball』を発表。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピレレのレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務めることが決定している。

【森山未来】

1984年兵庫県生まれ。数々の舞台・映画・ドラマに出演する一方、近年ではダンス作品にも積極的に参加。文化庁文化交流使として13年秋より1年間主にイスラエルに滞在、インバル・ピント&アヴシャロム・ポラックダンスカンパニーを拠点に活動。近作として、2016年3月「談ス」(スウェーデン、日本全国15都市で公演)や、同年4月にカールスルーエ・アート&メディアセンター(ZKM)にてソロパフォーマンス「Upload a New Mind to the Body」(『New Sensorium - Exiting Failures of Modernization』展に参加。イタリア、フランスでも公演)など。待機作として、京都ロームシアターにて「Vessel」(振付ダミアン・ジャレ 美術名和晃平)に参加、李相日監督作品、映画「怒り」(東宝系にて2016年9月17日公開)など。第10回日本ダンスフォーラム賞2015受賞。

取材・掲載に関する問い合わせ

ベネッセアートサイト直島 広報担当/川浦、ブルヒン

〒761-3110 香川県香川郡直島町850 TEL: 087-892-2550 / FAX: 087-892-4466
E-mail: press@fukutake-artmuseum.jp <http://benesse-artsite.jp/>

Benesse
Art Site
Naoshima